

ほぼ月刊 桑名歴史こぼなし

Vol.8 2019年10月1日発行

編集・発行：©社会福祉法人 桑名市社会福祉協議会 文化スポーツ振興課 TEL0594-22-8311

<戦国大名九鬼氏の末裔>



鳥羽城（鳥羽市）を築いた戦国武将**九鬼嘉隆**（1542～1600）は関ヶ原の戦いに敗れて**答志島**で自害しました。その一族のひとりが**和歌山県有田市**に移り住み、現在はみかん農家「**九一（くいち）農園**」を営んでいます。最も古い記録では正徳5（1715）年に**初代九鬼次郎大夫**（生年不詳～1727）の母が亡くなっており、以降は二代次郎大夫、三代次郎大夫、四代紋兵衛、五代次平、六代次郎大夫、七代英三、八代一夫、九代**秀年**（1959～）と続き、ロンドンオリンピック陸上日本代表の**九鬼巧**（1992～）に至ります。九鬼は平成4（1992）年5月18日生まれで、兄に筑波大学（茨城県つくば市）大学院博士課程を修了して大阪経済大学（大阪市東淀川区）専任講師を務める**靖太**（1989～）がいます。小さい頃は野球少年でしたが、**宮原小学校**4年生の時に兄の影響で和歌山陸上競技協会が運営する**紀の国ジュニアアスリートクラブ**（現在の紀の国アスリートクラブ）に所属して陸上競技を始めました。平日は**宮原少年野球クラブ**、土日は陸上の練習をする日々だったといいます。平成16（2004）年の**第8回近畿五府県交流陸上大会**では4×100mリレーで51秒53を記録し、現在も同クラブの歴代3位の記録としてホームページに掲載されています。**文成中学校**に入ると野球をやめて陸上に専念し、3年生で**第34回全日本中学校陸上競技選手権大会**の100mで8位入賞、**日本ジュニア室内陸上競技大阪大会**の60mで優勝しました。

<高校時代に100m10秒台を記録>

平成20（2008）年4月、**和歌山北高等学校**（和歌山市）に進むと1年生でいきなり100m10秒98の記録を出し、平成21（2009）年6月の**第62回全国高等学校総合体育大会（インターハイ）陸上競技大会近畿大会**では10秒34の**ユース世界記録**をマークしました。特にインターハイでは第62回と第63回の2大会で**史上5人目**となる**二連覇**を成し遂げました。国際試合への出場機会もあり、平成21（2009）7月の**世界ユース陸上競技選手権大会**ではスウェーデンリレーの1走（100m）を務めて銅メダル、12月の**第5回東アジア競技大会**では4×100mリレーの1走を務めて銀メダルを獲得しました。これらの実績を見た**早稲田大学競走部監督の磯重雄**（1961～）教授が主将の**江里口匡史**（1988～）を連れて来校して話し合う機会があり、「日本のトップレベルだけではなく、もっと上を見据えていると感じたんです。だから僕もここから世界を目指したいと思いました」と感銘を受けて進学を決めました。

令和元年8月21日、取材に応じる九鬼巧選手
（桑名市東方・NTN 桑名製作所）



<ロンドン五輪日本代表、そして早稲田大学競走部主将へ>

平成 23 (2011) 年 4 月、**早稲田大学**スポーツ科学部 (埼玉県所沢市) に進学し、競走部に所属して寮生活をスタートしました。2 年生になると次々と自己ベストを更新し、6 月 8 日の**第 96 回日本陸上競技選手権大会** 100m 予選では五輪 B 標準を突破する 10 秒 23 を記録しました。9 日の決勝では江里口に 0.01 秒差で敗れて 2 位となるも、11 日の日本陸上競技連盟理事会において**ロンドン**で開催される**第 30 回オリンピック競技大会**の 4×100m リレー日本代表に選出されました。

開会式は時差調整のために滞在したドイツのホテルでテレビ鑑賞し、競技会場では**ウサイン・ボルト** (1986~、ジャマイカ) など一流選手の走りを間近で目の当たりにしてその凄さに驚いたそうです。五輪本番では 8 月 10 日の予選と 11 日の決勝を**山縣亮太** (1992~)、江里口、**高平慎士** (1984~)、**飯塚翔太** (1991~) が走って 4 位に入賞しましたが、九鬼は出場には至りませんでした。補欠としてスタンドから観戦した九鬼は「**すごく悔しくて一生忘れられないもの**」と悔しさをにじませます。しかし、代表合宿とオリンピック選手村では山縣と同室で過ごし、「記録や勝負を意識する前に自分の思っている走り、レースをしていかないといけない」という言葉に強く刺激されたことから、さらに練習に打ち込み、平成 25 (2013) 年 9 月 6 日の**天皇杯第 82 回日本学生陸上競技対校選手権大会** (日本インカレ) の準決勝で日本歴代 10 位タイとなる 10 秒 19 を出して自己ベストを更新し、決勝では飯塚を追い抜いて見事 100m 王者となっています。11 月 9 日には創部 100 年を迎えた競走部の 100 代目の**主将**となり、平成 26 (2014) 年 2 月 19 日には**和歌山県スポーツ賞・スポーツ顕彰**を受賞しました。大学最後の公式戦は 11 月 1 日の**第 98 回日本陸上競技選手権リレー競技大会**で、4×100m を 2 位で締めくくりました。

<NTN 入社と桑名での暮らし>

平成 27 (2015) 年 4 月 1 日、**NTN** (本社大阪市西区) に入社して東京支社 (港区) に籍を置き、**陸上競技部**に所属しました。平成 28 (2016) 年 11 月には桑名製作所管理部総務課に異動し、同時に**多度町香取**の社員寮に入寮し、以来桑名で陸上教室の講師を務めるなどして地域との交流も深めています。平成 29 (2017) 年からは短距離キャプテンを務め、6 月 4 日の**布勢スプリント 2017**の決勝では三重県歴代 2 位となる 10



秒 20 を記録し、7 月 7 日にはインド共和国で開催された**第 22 回アジア陸上競技選手権大会**に出場して準決勝まで進んだことで平成 30 (2018) 年 2 月 15 日に**三重県体育協会優秀選手賞**を贈られています。現在はオリンピック強化指定選手として令和 2 (2020) 年 7 月 24 日に東京で開催する**第 32 回オリンピック競技大会**を目指し、**NTN 総合運動公園** (芳ヶ崎) や**味の素ナショナルトレーニングセンター** (東京都北区) などで練習に励んでいます。桑名の印象を尋ねると「**平成 29 (2017) 年に多度山を走って登ったら予想以上にきつかったです。しかし、自然がいっぱいでとても良い所です**」と話し、今後については「**桑名の皆さんに NTN と九鬼巧のことをもっともっと知っていただけるように頑張ります**」と語っていました。